

## はじめに

進行再発消化器癌の治療は、外科治療、化学療法、放射線治療を主体に行われていますが、癌化学療法センターは、外科治療以外の治療法を系統的かつ集約的に行うために、平成10年4月に設立された部門です。専門病棟で治療を行う利点は、スタッフ全員が化学療法に慣れているため化学療法に伴う異常時にすぐ対応できること、化学療法時の精神的身体的不安に関して適切なアドバイスができることなどであり、術後の患者さんも療養する一般病棟に比較しきめ細かな対応をすることができます。

## 進行再発胃癌、大腸癌の化学療法

消化器癌の代表として、胃癌、大腸癌について挙げます。胃癌は、部位別癌死亡原因では肺癌に1位を譲ったものの依然として患者数が最も多い癌であり、大腸癌は近年患者数の増加が著しい癌であります。これらの癌に対する化学療法は、白血病や悪性リンパ腫などの化学療法で完治が期待できる疾患に比較して反応が小さいのは事実であります。しかし、新規抗癌剤の導入や投与方法の工夫、更には悪心嘔吐などの副作用を押さえる薬剤などの開発により、患者さんにより負担が少なく、従来の同等以上の治療効果を得ることが可能となりました。

化学療法の目的は、症状をコントロールし長く日常生活を送ってもらうことにあります。外来治療はその目的にかなうものですが、平成11年3月より胃癌に対し許可された新規5FU系抗癌剤は内服薬として従来の注射薬の治療成績を凌駕する奏効率が報告されていま

す。このような内服薬を活用する他、注射薬も投与方法を工夫して可能な限り外来での治療を行う方針を採っています。

## 緩和医療への取り組み

化学放射線療法を行ったものの治療効果が望めない場合は、疼痛管理などの症状コントロールをいっつつ、残された時間をどう送るかに関して、患者さんと家族の方の意向を更に尊重しなければなりません。いわゆる緩和医療が中心となってきます。緩和医療は、「治癒を目的とした治療に反応しなくなった患者に対する積極的全人的なケアであり、痛みや他の症状コントロール、精神的、社会的、霊的な問題のケアを優先する。その目標は患者と家族のQOL (Quality of Life) を高めることであり、がん治療のあらゆる過程で適応される」と定義されています。重要な点は、対象が患者だけでなく家族も含んでいる点、ケアは治癒不能と診断された時点でなく癌と診断された時点より始めるべきである点です。当センターでは、患者さんと家族の方との関わりを始めた時点より精神面も含めた情報、問題点をカンファレンスでスタッフが共有した上で診療を進めるよう心掛けております。

## まとめ

進行再発消化器癌の治療は、まだ今後進歩の余地があるように思いますが、患者さんと家族の方が納得が行く治療を受けられるように、対話を重視した診療を進めていきたいと考えております。

## 癌治療と痛み治療・緩和医療のあり方

